

愛知教育大学におけるデザイン教育（2）

発表者：富山 祥瑞

愛知教育大学 教育学部

tomiyaama@aeu.ac.jp <http://www.tomiyaama-stationery.com>

産業界から教育界に転身4年生の筆者は、着任時、小・中学校の学校現場のデザイン教育が、美術教科の一つの表現領域である「構成」に強く留まっていることに驚いたものです。

言うまでもなく、デザインとは、社会生活それぞれの場面で、その背景にある問題を掴み（課題の把握）、筋道を立てて課題を解決していく取組みそのものを指し、さらには、解決策をいかに社会に還元するか！までを見据えた一連のマネジメントのこと、を示す（はずでした）。産業界では極めて当たり前のことですが、教育分野では、デザインとは「色や形をまとめる行為（構成）」になっています。この原因はどこにあるのでしょうか？

我が国のデザイン教育が、バウハウスの予備教育のみを短絡的に採り入れたという指摘は以前からありますが、この構成教育が定着しているのも事実です。

筆者の勤務する愛知教育大学は教員養成系で、デザインの専門家を育成する目的の教育機関とは性格を異にします。しかし、小・中学校の教員になる人材が「デザイン＝外観や視覚を扱う装飾的な意味合い」のまま教育現場に巣立つならば、このデザイン教育は無意味なものとして反映されるでしょう。従来の「デザイン＝構成」教育に対峙する「デザイン＝マネジメント教育」へのダイナミックな変革は必須であり、これは案外、教員養成系の大学から突破口が開けるのではないかと——というのが、筆者の最近の考えです。

1998年に小学校3～6年および中学校に設けられ、2002年度の学習指導要領の実施で本格的に導入された新しい時間帯に「総合的な学習の時間」（以下「総合学習」と記述）があります。小・中学校で週3時間ほど設定されていますが、教育プログラムが現場の自由となっているため、逆に苦勞し、早くも現場からは見直しの声が上がっている「教科」でもあります。

「総合学習」のねらいは「自ら課題を見付け、自ら学び考え、問題を解決する力を育てること、また、情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討議の仕方などの学び方やものの考え方を身に付け、問題解決に向けての主体的・創造的な態度を育成」（『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省2004）にあるようです。ならば、デザインが本来持ち合せている「問題解決としてのマネジメント」は、美術（図画工作）分野としてではなく、この「総合学習」の分野でこそ発展させられないものか！と目論んでいます。

筆者は、教員養成系大学の勤務校で、このマネジメント教育に立脚したデザイン教育プログラムの開発・研究を目指しています。

本日は、3年後に教員となる学部2年生を対象とし、「問題解決としてのデザイン認識」を目標とした授業内容の紹介と、受講学生のチャレンジした問題解決について報告します。